

第 12 回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時 令和 8 年 10 月 22 日（木）
午後 5 時 30 分から午後 7 時
会場 豊科交流学习センターきぼう

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 報告事項

- （1）第 11 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

4 会議事項

- （1）新校の学びのイメージに係る意見交換
- （2）校地検討部会の設置について
- （3）その他

5 諸連絡

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第12回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

◎座長（敬称略）

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	渡辺 守	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		丸山 俊樹	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	会長
18	P T A	林 明彦	南安曇農業高等学校 P T A	会長
19		都築 久美子	穂高商業高等学校生徒を支援する会	会長
20		栗田 美子	池田工業高等学校 P T A	会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	顧問
22		小澤 誠一	大北 P T A 連合会	会長代行
23	小中学校等 関係者	原田 邦彦	安曇野市校長会（三郷小）	会長
24		高山 俊彦	北安曇校長会（大町南部小）	会長
25		山岡 勝則	安曇支援学校	校長
26	再編対象校	佐藤 ふわり	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		清水 廉	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		武藤 穰	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		浅井 聖南	穂高商業高等学校	生徒会長
31		西山 揺渚	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		曾根原 宏紀	池田工業高等学校	生徒会長
35		原田 大夢	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		江尻 一麻	池田工業高等学校	校長
37		西山 浩介	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 今溝 秀雄、赤沼 広志、上松 文枝、都筑 勝、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） 原 周一郎
	（教職員） 川上 忠志、有賀 詩織、木村 彩芽、鈴木 賢二、相馬 勇一
池田工業高等学校	（教頭）（全）山口 秀樹、（定）井貫 昇平
	（教職員） 西山 浩介、佐藤 仁、松井 一陽、水上 綾子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	楯 和弘	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	犬飼 伴俊	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第 11 回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和 8 年 7 月 16 日（木）午後 5 時 30 分から午後 7 時		
場 所	豊科公民館 2 階 大会議室（安曇野市豊科 4289-1）		
出 席 （敬称略）	渡辺 守、橋渡 勝也、山崎 晃、高嶋 雅俊（代理）、宇留賀 勝巳（代理）、傳刀 勇 村松 浩幸、斉藤 岳雄、石井 克則、草間 英樹（代理）山口 陽輔（代理）、笠井 明 山崎 完好、布山 則男（代理）、林 明彦、都築 久美子、栗田 美子、下屋 春香（代理） 原田 邦彦、高山 俊彦、佐藤 ふわり、清水 廉、武藤 穰、今溝 秀雄、浅井 聖南 西山 揺渚、三宅 浩一、川上 忠志、曾根原 宏紀、原田 大夢、江尻 一麻、西山 浩介 （以上 32 名）		
欠 席 （敬称略）	宮澤 達、深澤 大輔、宮崎 鉄雄、小松 公平 山岡 勝則（以上 5 名）	傍聴	会場 16 名、報道 3 社
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、赤沼教諭、今溝教諭、上松教諭、都筑教諭、矢野教諭	
	穂高商業高校	原教頭、有賀教諭、川上教諭、木村教諭、鈴木教諭、相馬教諭	
	池田工業高校	山口教頭（全）、井貫教頭（定）、西山教諭、佐藤教諭、松井教諭、水上教諭	
	県教育委員会	井出室長、柳沢主幹指導主事、楯主任指導主事、望月主任指導主事 宮沢指導主事	
会議事項	（１）第 10 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ （２）再編実施基本計画策定に向けて （３）新校の学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	第 11 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会資料		

主な内容
会議事項 (1) 第 10 回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ【質問、意見なし】 ○懇話会まとめの公開を早めるため、懇話会終了後、メールにて構成員へ送付し、内容確認および了承を得たうえで、県ホームページに掲載する予定。【質問、意見なし】 (2) 再編実施基本計画策定に向けて ○懇話会のこれまでの経過および今後の流れについて説明。【質問、意見なし】 (3) 新校の学びのイメージに係る意見交換 ○学びのイメージ図および修正箇所について提示【質問、意見は次回】 ・「目指す学校像」内『M I R A I』のアルファベットに意味を持たせることを提案。 M (Mastery/習熟・達成感)、I (Innovation/革新・創造)、R (Respect/尊重・思いやり)、 A (Achievement/達成・成功体験)、I (Inclusion/多様性を受け入れる) とする。 ・これまでの「育てたい生徒像」から生徒主体にした「目指す自分像」に変更し、それに伴う具体的な文言修正案を提案。 ○学科共通の活動・取組み・仕組みに対するグループワーク。 【グループワークまとめ】 [A グループ] ・鶏を例に「課題研究」で学科連携し、工業科が鶏小屋を建て、農業科で鶏を育て、商業科で鶏卵を使った商品を企画・販売するような活動ができないか。 ・地域と連携した安曇野ブランド商品を販売することができる場所があるといい。 ・中学生で学科を選択して入学することは難しいのではないかという話がある。くくり募集にしておき、1 年次に農工商の学びを体験したうえで学科選択をする形態はどうか。 ・専門学科の学び以外に、他学科の科目も選択できるような仕組みがあるといい。 ・「地域が第 2 の教室」として、地域に出て学ぶことができるような学校にしていきたい。 [B グループ] ・1 年次に 3 学科の学びを体験できるといい。 ・3 年次に科目選択によって他学科の学習ができるといい。 ・3 年次に学科相互にコラボレーションできる連携授業があるといい。 ・地域に出て学ぶことは、コミュニケーション能力の育成にもつながる。地域を積極的に利用しながら地域からも学ぶことのできる学校にしてほしい。 [C グループ] ・厳しい世の中において、思考したり判断したりすることも難しい状況もあるが、子どもたちの目線に立ち、生徒に寄り添うことを大切にするを確認した。

- ・基礎学力を大切にし、そのうえで専門性の深化に向けて「問い続ける」ことが重要。
- ・専門性を高めることが大切。
- ・「課題研究」で3学科それぞれの特性を生かした活動として、どのような取り組みができるか考えたい。
- ・地域をフィールドにした学びを充実させることは非認知能力の育成につながる。
- ・土、水、命から学ぶことを基本に保護者・地域・外部・教職員で関わり、生徒を育てられるといい。
- ・普通科にない魅力のある学校にしていきたい。

[Dグループ]

- ・3学科がチームで学ぶことも、3学科それぞれに学びを充実させることもどちらも重要。
- ・非認知能力の観点では、PBL (Project Based Learning/プロジェクト学習)等を通して失敗体験をすることも重要ではないか。
- ・地域との連携や地域で学校を支えていくという考え方が重要という話もあるが、地域の方をお願いばかりにならないようにすること、企業の負担にならないようにすることや持続可能なものでなければならない。
- ・学科の学びを連携させる必要がある一方、それぞれの学科の専門性を高めるといった相反する部分の課題をどう解決するか。カリキュラムの面でも課題はある。
- ・本当に専門的なことは上級学校で学び、高校での専門性の解釈を変えるという考え方もある。
- ・総合技術高校には普通科にない魅力が必ずある。中学生に総合技術高校の魅力を伝え、中学生が入学したいと思うような学校にしたい。

[Eグループ]

- ・安曇野新校ができることにより、生徒数が増え、クラブ活動や学校行事、研究発表やアイデアなどメリットが多分にある。
- ・3学科があり、自分や自分の学科だけでは解決できない課題を他学科に投げ掛け、みんなで解決することができるのはメリット。
- ・今後、更にAIやITが進化する中で、3学科の学びをどのように進めるかを考えなければならない。
- ・商業科をベースとした様々なカリキュラムを組んでみると面白いのではないかと。特に“地域人教育”に取り組んでいるが、地域には経験や知識・技術をもった多くの人があるので、そのような方々や地域から学ぶということが重要ではないか。
- ・様々なことに取り組むにあたり、各学科の多様な視点で物事を見ることが大切。
- ・安曇野に限定せず、もっと大きなスケールで考えてもいい。
- ・“人”が一番大事であり、人をどう育てるかが第一だと思う。
- ・普通科にない様々な経験により、失敗したり成功したりする中で、自己肯定感が育まれる。
- ・生徒が夢中になれることが多くちりばめられた学校にしたい。

[座長まとめ]

〈学科連携〉

- ・学科をどのように連携させるか、学びの広さと専門性といった相反する課題をどのように両立させていくか、具体的なカリキュラムにどのように落とし込んでいくかがポイントになる。

〈地域をフィールドとした学び〉

- ・学校と地域が双方向に関わり合い、「地域が第2の教室」になるという視点を持つと面白い展開ができる。

〈非認知能力の育成〉

- ・学科の学びを考える前提として、生徒たちの目線に立ち、どのような生徒を育てるかというビジョンが必要。

〈全体〉

- ・上記3観点は、それぞれが独立したものではなく、相互に関わり合いながら具体的な学びを作っていくことで形作られる。

【事務局より】

- ・アルファベットの『MIRAI』に対する意味を加えたこと、修正した「目指す自分像」に関するご意見をいただく時間がなかったため、改めて次回ご意見をいただきたい。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 未定
- ・内容 未定

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施基本計画（案）

1 再編統合対象校

南安曇農業高等学校（全日制）、穂高商業高等学校（全日制）、池田工業高等学校（全日制・定時制）
※旧 12 通学区内の定時制配置のあり方は、校地検討と併せて検討する

2 募集開始（開校）年度

令和_____年度以降

3 活用する校地・校舎 ()

本日提案する「校地検討部会」において検討を始めます

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

() 制課程 () 科 () 学級程度

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

全日制課程の学科については、本日提案します

5 統合新校の学びのイメージ (別紙のとおり)

第3回懇話会(R6.7.19)以降、継続検討中

6 統合新校の施設整備について

- ・新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。
- ・施設整備に要する期間は_____年程度を想定。

地域と共に歩む、MIRAIを切り拓く総合技術高校

■目指す学校像

- ・横断的なかわりをおして、好きやMIRAIを再発見できる学校
- ・MIRAIにチャレンジする学校
- ・地域とともにMIRAIを創造する学校

- M**astery (習熟、達成感) … 専門性を深め、確かな技術と自信を得る。
Innovation (革新、創造) … 既存の枠組みにとらわれず、新しい価値を生み出す。
Respect (尊重、思いやり) … 他者と地域を敬い、協働の精神を育む。
Achievement (達成、成功体験) … 小さな挑戦を積み重ね、自らを高める。
Inclusion (多様性を受け入れる) … 異なる背景や価値観を力に変える。

■目指す自分像

- ・自らを大切に、豊かな心と高い倫理観を兼ね備えた自分
- ・チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持ち、高い専門性を追求する自分
- ・安曇野での学びをおして、さまざまな課題解決に貢献できる自分

総合技術高校としての進化

第11回グループワーク ご意見のまとめ

非認知能力の育成×学科連携×地域をフィールドとした学び

学科の枠を 越えた学び

農・工・商の学際知

- ①くくり募集と学科選択
2年次から学科選択
- ②専門性と学際性の両立
自学科深化と他分野修得
- ③学科横断の課題研究
農・工・商合同の解決策創出
- ④起業家精神の育成
地域リーダー・経営者の排出
- ⑤6次産業化の実践
生産・加工・販売の一貫学習
- ⑥柔軟な他学科科目履修
関心・進路に応じた科目選択

地域をフィールド とした学び

地域での実践

- ①安曇野独自の学び
自然・歴史・産業の教材化
- ②デュアルシステムの発展
学校と現場の往還学習
- ③店舗運営・販売体験
生徒主体の経営実践
- ④行政・地域住民との共創
まちづくりと活性化
- ⑤地域人材ネットワーク
まちの匠・プロをメンターに
- ⑥ブランド創出・開発
特産物による商品企画

非認知能力の 育成

人間性の育成

- ①主体的な挑戦と自己肯定感
成功体験の積み重ね
- ②対話（コミュニケーション）
人間関係の協働構築
- ③失敗から学ぶ力
試行錯誤を糧にする強さ
- ④豊かな人間性の醸成
自然体験と生命への敬意
- ⑤社会人基礎力・規範意識
マナー・モラルと信頼
- ⑥主体的特別活動
リーダーの育成

各科専門性の深化

特にご意見いた
だきたい箇所

農業科

- ・生命や自然に向き合い、科学の基本と命の尊さを学ぶ
- ・スマート農業やDX等を駆使し、持続可能な未来の農業を切り拓く学び
- ・地域や企業と連携し、課題を解決する探究的な学び

工業科

- ・伝統的な職人技から最新のデジタル技術までを学ぶ創造的なものづくり
- ・将来に役立つ各種資格取得への積極的な挑戦
- ・広域デュアルシステムの推進

商業科

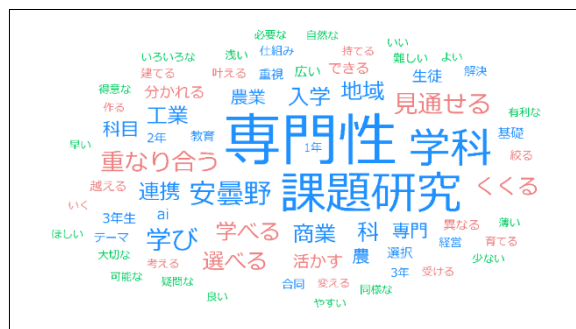
- ・他者との対話を通して課題を多角的に捉え、思考の深化を果たす。
- ・企業との協働によるPBLの実践を通して、ビジネスの知識を活かし、筋道をたてて考える力を身に付ける。
- ・新たな価値を創造し、発信、普及させることを通して地域貢献を果たす。

第11回安曇野総合技術新校再編実施計画懇話会（令和8年7月16日）グループワークまとめ テーマ「学科共通の活動・取組み・仕組みを具体化する」

学科連携

1 学科の在り方・学科選択の仕組み

- 学科内だけで夢が叶えられるなら学科内で。夢の実現に他学科の学びが必要なら他の科の授業も選択できるように。
- 融合した学科のようなものがあると面白い。
- 途中からそれぞれの専門に分かれていくような形。
- 入学した時に自分の課題があって、それを解決できる科、科目を選択できるような学び。
- 1年次から科を絞るのが難しい子もいるのではないかな。2年次から学科が分かれる方が入りやすいのではないかな。
- 他県には商工一緒で入る学校もある。
- 得意不得意が見えてから選べるのはいい。
- くくり募集は、自分の学びたい科を選べる。
- 1年次学んでおいてから選べるのはいい。
- 中学生でここへ行きたいと選べる生徒は少ない。学びを体験できるといい。
- どの生徒もいろいろな科目を受けることができるといい。
- 1年次すべての学科を体験できる仕組みや、途中で学科変更できるのも可能であればいいと思う。
- 1年次に広く、2年次で選択、2・3年次で連携した学習。
- 入学の際に3つの学科が学べると進路が広がる。
- 1年生の時に他学科を学ぶか3年生でコラボレーションするのかどちらがいいだろうか。
- 入学時に専門を決めてはいるのが良いか、入学してから選べるのがいいのか。入学時に決めて入学しても自分に合わない大変、かといって高校3年間という制約もある。
- 経験（入学）してから、学びたい内容を選びたい生徒は増えている感触。
- 学科選びの難しさを察する。くくり募集という方法もあるが、学科を途中で変えるのは現実的に難しい。保護者の見解とシステムの違いへの理解、義務教育の段階におけるキャリア教育も大切になる。普通科にない魅力ある学校になることを期待する。
- お試しで他の専門を学ぶことができる仕組みはどうか。



2 学科間連携・横断的な学び

- 1次・2次・3次産業の融合。
- 体育科目など他学科と一緒に学ぶ。
- （農）生命、自然 （工）デジタル （商）ビジネス、ホスピタリティの3つが重なり合い、真ん中に地域がある。
- 合同でいくつかのグループを作って学ぶ課題研究。（鶏を工業科が小屋を作り、農業科が育て、商業科が鶏卵商品を販売）
- 課題研究を3学科合同で発表。
- 専門的な学びと学際的な学びが両立できる仕組み。
- 学科間連携で工業×商業、農業×商業で作ったものを販売する。
- 他学科の専門を学ぶと就職の際有利になるのではないかな。
- 専門性の考えに変化がある。他学科を学ぶことにより、より専門性の質を向上させることができるのではないかな。
- 他の専門を学べる余裕があるのかは疑問。共通選択の科目として設定することはできるのではないかな。3学科がチームで地域をテーマに学ぶ等も可能か。
- 3学科がチームで卒業研究や課題研究をやるのはどうか。
- 3学科が学科の枠を越えて課題研究をやることはできると思う。

- 1・2年で3科のそれぞれの基礎を学び、3年でチームになって課題解決をする活動に展開できると面白い。
- 飯田 OIDE 長姫高校では、他学科の基礎科目を学び合い、課題研究では他学科と連携した取り組みをしていた。他学科の内容を学び・知ることができたことはメリットであった。
- 商業はベースとなるものなので、みんなに教える。
- 自分の抱えている課題を他学科に投げ掛け、自分だけでは解決できないことをみんなで解決する。
- 商業科では1年次のケースメソッド教育、2年次のPBL、3年次の地域人教育という形で課題解決の学びを行っている。農業や工業でも同様に課題に対してどのように解決するかという学びが必要であると思う。商業のこの流れをベースにすることはできる。
- 地域をフィールドにしたものや安曇野だからできるもので「6次産業化」をテーマに学科連携してみてもどうか。

3 専門性の深化とその考え方

- 職業科へ進学する生徒は未来を見通せているため、それを活かせば未来や将来を考えられる学校。
- 現在学んでいること→家を建てていく工程を考えるのが楽しい。
- 将来経営者になりたい人を育てる。
- 学んだことに自信を持てる（いろんなものを学ぶより1つを極める）。
- 専門性を重視するため、総合選択は3年生で選択できるようになるとよい。
- ころころ変わると内容が薄くなってしまう。普通高校と異なる専門学科の色をしっかり出したい。
- 1・2年次の基礎学力を大切にしたいうえで、専門性、実践力を身につけていく。その中で自ずと学科間連携・外部との関わり・机上の学びを越えた学習になるのではないかな。
- 世の中の情勢やAI等の技術が変化するスピードが早いなかで、専門性の深化を求め続けることをしていくことについては疑問。広い見地で考えていくことが必要ではないかな。
- 専門性を重視することが大事。いろんな学びが必要なことは理解するが、高校生は広く浅くではなく、専門にとがってよいのではないかな。課題研究での学科連携は良いと思う。
- 公務員になれる学び（特に土木職）など、地域を支える人材教育ができるといい。
- 経営する上で、3学科の専門性は必要。地域の企業で先端技術を知ることにも有効。
- 「連携する」とことと「専門性を高める」ことの相反する事柄をどう乗り越えるか課題である。両方やって深める余裕があるのか難しいのではないかな。
- 本当の専門性を学びたいと思ったら、上級学校で学ぶということも考えられる。専門性の解釈を変えることも必要になる可能性がある。

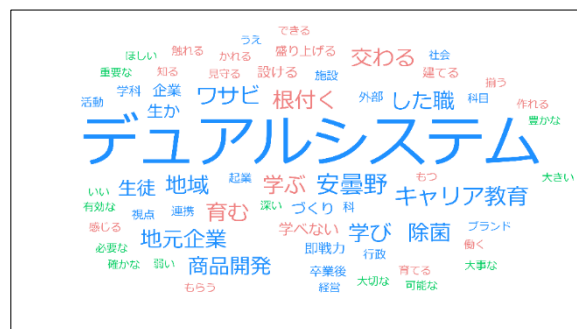
4 地域連携・学校の特色づくり

- 地元企業の講義。
- 現在学んでいること→地域と一緒に考えていくのが楽しい。安曇野の水の保全。
- 地域が第2の教室として機能してほしい。地域の中に学校があり、学校の中に地域がある。
- 地域との繋がりが普通科との違いであり強みであるため、活かすべきだと思う。
- 中学生に入学したいと思わせる学校にしてほしい。特色を出せないと私立高校に生徒をとられる。
- 自分は建築の設計を仕事としているが、デザインを重視している。AIやロボットの活用は遅れている。CADの利用なども教師がレベルアップしないと今後対応できない。安曇野の新社ということであるため、原風景のこの場所がいい。
- クラブ活動にしても研究発表会にしても、人数がいることは盛り上がりにつながる。南農の卒論は一人1テーマで取り組んでいるがとてもよい。他学科の発表からの気づきもある。

地域をフィールドとした学び

1 地域連携・安曇野をフィールドとした学び

- 安曇野のブランドを生かした職の共同開発。
- 安曇野ブランドも乗っかれるといい。
- 地域と一緒に学んでいくのがいい。高校で専門を学び即戦力として地元で働いてもらいたい。
- 行政とも連携しながら地域を盛り上げられるといい。
- 地元企業と交わるフィールド。
- 安曇野でしか学べないものと考えてほしい。
- 地域の企業で学ぶ。地域とともに商品開発。3年次、より深い学びに。
- 地域の皆さんに協力してもらえる。
- 地元を知り、地域を根幹にした学びが大切。
- 安曇野というところがどういうところか知ることが学び。水に苦労した歴史、緑豊かになった理由、それらを知ったうえで学ぶ。ふるさとを感じて学ぶことを大切にしたい。特に農業は他の学科と触れられるようになるとよい。
- 地域で学ぶことは、非認知能力を育むうえで重要。
- 地域に埋もれた知識を持った人々はたくさんいる。そういった人を活用するのはどうか。
- 地域人教育では、個人で課題を見つけてその課題を解決する活動である。例えば、ワサビの茎が捨てられている現状から、ワサビの除菌作用に着目し、除菌スプレーを商品化したケースがあった。地域を学びの場にしていくことは、生徒の成長にとって有効。現在は商業のみの視点であるが、他学科の視点も面白い。
- 安曇野に限定してしまうと、内容も限られてしまう。



2 企業連携・デュアルシステム・キャリア教育

- 人・企業・仕事・魅力を学ぶ科目の設定。
- デュアルシステムの継続。
- デュアルシステムの様に成果が出る仕組みづくり。
- 実際の現場の様子を知ることができるため、デュアルシステムは続けた方がいい。
- 現在、私は福祉関係施設にてデュアルシステム体験中だが、企業から生徒に来てもらいたいと思われる人材、学校づくりが必要だと感じた。
- デュアルシステムはいい活動であるため、ぜひ新校でも行えるといい。
- 小中学校からキャリア教育は行っているが、高校での展開も期待されるところ。企業としては、将来的な働き手が欲しい。
- 中学の時にも確かにキャリア教育はあったが、社会に関わることはなかった。
- 社会に出て通用することが重要。地域の方とのかかわりをもちながら、外部に子どもたちの学びを知ってほしい先生と生徒のコミュニケーションが大事。時代柄、生徒の持つ弱さを保護者、教員、外部のみんなで見守り・育てていく。

3 起業・商品開発・実践的な学び

- 企業と協力して店を建て、地域のものや学校で考えたものを販売。
- 生徒が経営する店があってもいい。
- 自分たちで販売活動がしたい。
- 卒業後、起業するような目標で3科の生徒が揃って活動できるといい。
- 三校の課題研究を大きく地域の枠でできると面白い。
- 高校と地域が連携し、win-win の関係を作れるといい。

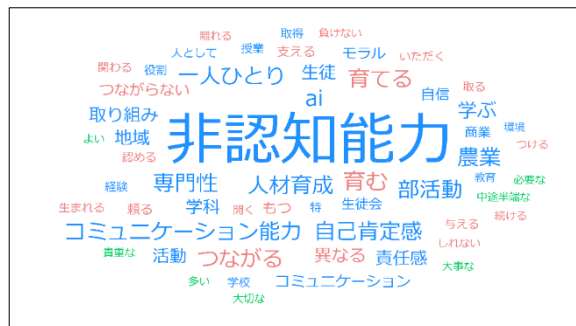
4 連携を支える仕組み・学科間協働

- トークルームにおいておしまいではなく、コーディネーターを別に設けて施設とやりたいことがマッチングするのではないかと。根付くためのシステムを作ることが大事。
- 企業の負担にならないよう、お互いに well-being というか持続可能な関係づくりや3科の学び合いができるかプレでやってみる。

非認知能力の育成

1 非認知能力・人間力の育成

- AIに負けない人材育成（コミュニケーション能力の向上）
- 同じ目的をもったものでグループを作り、一人ひとりに役割を与えて、自信や自己肯定感を育てる。
- 社会人としてのモラルを身につける。
- 自信をもって学び、地域で学び、非認知能力を育てたい。
- 他学科の子から認められることが自信につながっていくのかもしれない。
- コミュニケーション能力は環境によって異なるので、AIに頼るのではなく、目を見てコミュニケーションを取る環境もあるといい。外に出てコミュニケーションを取る活動で学ぶことが重要。
- 非認知能力を学ぶには、心を育てることにある。土や水・命から学ぶ農業に関する取り組みから非認知能力が育まれることが多くある。土から離れた農業にはそれが無い。
- 人を大事にすることは必要であるが、どういうところからそういった気持ちは生まれるか。
- 経験→成功→自信となる。専門学科は普通高校より授業として経験することが多い。人が人を育てる学校にしたい。



2 専門性・自己肯定感との関係

- 商業を学んできて、皆が同じことをやっている。全部中途半端だと、自信につながらないかもしれない。
- 専門性をつけてから、他学科とコラボすると自己肯定感につながるのではないかな。

3 地域と関わる学び・体験活動

- 生徒と地域が関われる場を作る。
- 農業クラブの活動には、地域に開かれた教育などもある。生徒がそういった活動を担当することによって責任感が出る。
- 失敗体験をすることも貴重な経験であり、地域にも協力していただき、安曇野をフィールドにしてPBLなどを実践することは学校を支えるいただくということにつながる。

4 部活動・生徒主体の活動と学校の魅力

- 部活動などスポーツに特化したようなものがあると面白い。
- 学校の授業もよいが、部活動などで育むことができると思うので、活動を続けて欲しい。
- 部活動や資格取得へのチャレンジは必要。
- 私も部活動や生徒会活動は必要である考える。生徒主体の活動の保証しながら普段の授業も大切にする。
- 私は中学生の時学校の説明を聞いて、科学的なことをしているということや植物工場に興味をもった。

1 懇話会内における意見

- ・農業を基本とした学びの場、地域の課題の研究の場で農業技術と地域連携で心を育む教育
- ・農業科でしか学べないような専門性を高める科学的な授業は楽しい
- ・これからの農業は、科学的知識や先端技術を活用する人材が必要になる
- ・スマート農業やデータ活用も含めた学習が必要である

2 産業界の方からの意見

〈2040 年の社会の変化とこれからの人材育成〉

- ・変化を見つけ、自ら学び続ける力が重要
- ・データや経営数値を読み取り改善につなげる能力が必要
- ・J Aや行政など多様な関係者と協働できる対話力・協働力が必要
- ・リスクリングを継続できる探究心と柔軟性が求められる

〈専門性と専門性の深化〉

- ・米づくり等を題材にした学科横断型学習が有効
- ・学科連携を進めるほど、各学科の基礎を確実に身につけることが重要
- ・農業科は生命現象を理解し、安全な農産物を安定生産する力が基盤
- ・「生産管理・スマート農業・アグリビジネス」を統合した教育への転換
- ・栽培から採算計算までを学ぶ実践型経営教育

3 校内における検討

1 新校に引き継ぎたい学び

生命を扱い、自然と向き合う農業科の学びの「特性や本質」を整理・考察し、農業分野での人材育成の必要性を確認。また、農業の持つ多面的な機能、安曇野に根付いた農業、関連産業及び地域からの要望を踏まえ、本校で取組む各分野の学びを継続。

2 イノベーションと適応のための学び

少子高齢化の加速や自然環境の変化等に対応するため、各分野における基礎的な知識や技術を有しながらも、時代の変化に対応した学び（スマート農業やD X及びG X、経営等）を導入。

3 地域人材の活用を推進した学び

その道のスペシャリストをロールモデルとしたキャリア教育の推進。地域連携協働推進室の創設。

4 小学科（今後検討）

1 懇話会内における意見

- ・技術立国日本を支える基礎は工業教育にある
- ・現場で役立つ実践的な技術教育を充実させるべきである
- ・本物の仕事から学ぶ環境を維持することが重要である
- ・情報技術やプログラミングなどの学習は、今後さらに重要になる
- ・地域産業の DX を支える人材教育が求められている

2 産業界の方からの意見

＜2040 年の社会の変化とこれからの人材育成＞

- ・AI が普及しても、人間には独創性とチャレンジ精神が必要
- ・研究心・向上心を持ち続けること
- ・知識・技能・技術を向上させ続ける姿勢

＜専門性と専門性の深化＞

- ・まず基礎知識の習得を重視
- ・部品製作からプログラミングまでを一貫して行うものづくり総合力
- ・基礎知識に加え、先進設備を活用した実践的学習
- ・高度な技術の前に、ローテク（基本技能）の徹底した体験が必要
- ・基礎技能の習得が高度技術活用の土台となる

3 校内における検討

- 地域密着型の工業科として、工業に関する基礎知識と技術・技能を土台として、地域インフラを支えとともに地域社会の課題を解決して産業の未来を担う人材育成を目指したい。
- ・伝統的な職人技から最新のデジタル技術までを学ぶ創造的なものづくり（工業におけるものづくり学習を通して、自分の手でアイデアをカタチにする楽しさを追求させたい。）
- ・将来に役立つ各種資格取得への積極的な挑戦（専門高校の大きな魅力であるとともに生徒の大きな自信につながる、資格取得に積極的に挑戦し、失敗を恐れずにチャレンジできる環境を作りたい。）
- ・広域デュアルシステムの推進（新校として、従来の大北地域のみならず・安曇野市および東筑摩郡や松本市の工業・商業・農業に関わる各種産業界までの拡張した広域な新校版デュアルシステムに進化させられればと考える。学校で習得する「理論」と産業現場で集中的に実施する「実践」を融合させて生徒のキャリアデザインにつなげたい。）

4 小学科（今後検討）

1 懇話会内における意見

- ・地域経済を支える人材教育という視点は重要である
- ・地域課題をビジネスの力で解決する視点はこれからますます重要になる
- ・新しい価値を創造する力を育てることが大切である
- ・情報活用能力は、21 世紀型能力の基礎である

2 産業界の方からの意見

〈2040 年の社会の変化とこれからの人材育成〉

- ・地域就職につなげる仕組みや教職員による積極的な就業支援
- ・高校段階で生涯にわたる能力を完成させることは難しい

〈専門性と専門性の深化〉

- ・AI や DX などの新しい技術動向を学ぶことは重要、ただし高校 3 年間だけで高度な専門性の深化を目指すことに限界がある
- ・それぞれの学科の基礎的能力の習得を重視すべき

3 校内における検討

- ・本質的な問いを立てる力の育成

AI が最適解を出す時代だからこそ、他者との対話を通じて多角的に捉え、自ら本質的な課題（問い）を発見する力が不可欠となる。

- ・学びの舞台を社会や産業の現場へ拡大

教室での座学にとどまらず、企業と協働した PBL の実践を日常化することにより、実際の現場でビジネスの知識を活用し、論理的に思考する力を高める。

- ・価値の創造と具体的な地域貢献

単なる探究で終わらせず、アイデアを形にして社会に届けることを目指す。地域課題の発見から企画、プロモーションまでを生徒自らが手掛け、新たな価値を創造し、発信することによって地域貢献を果たす。

4 小学科（今後検討）

安曇野総合技術新校 校地検討会議開催要綱（案）

高校再編推進室

1 目的

県教育委員会が安曇野総合技術新校の校地を決定するにあたり、安曇野総合技術新校再編実施計画懇話会（以下、「懇話会」という。）における意見交換を円滑に進めるため、校地に特化して検討を行う専門部会（校地検討部会）を設置する。

2 運営

- （１）校地検討部会には部会長を置く。
- （２）校地検討部会が開催する会議（校地検討会議）は原則として非公開とする。
- （３）校地検討会議の開催は懇話会と同一日を基本とする。
- （４）校地検討会議では、校地・校舎に係る環境、通学環境、学習活動を支える教育環境等の観点から新校の校地について検討する。
- （５）校地検討会議の内容については、随時懇話会で報告する。

3 構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	渡辺 守	安曇野市 副市長
2		宮澤 達	池田町 副町長
3	学識経験者	村松 浩幸	信州大学教育学部 教授
4	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会 会長
5		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会 会長
6		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会 会長
7	学校関係者	武藤 穰	南安曇農業高等学校 校長
8		三宅 浩一	穂高商業高等学校 校長
9		江尻 一麻	池田工業高等学校 校長

※オブザーバーとして松本地域振興局長・北アルプス地域振興局長が参加する。